○３番（上田雄一君）〔登壇〕

ただいま議長より登壇の許可を得ましたので、これより３番上田雄一の一般質問を始めさせていただきます。

今回、私は武雄市の今後の方向性について２項目、１つは一般会計について、そして２つ目は教育についてと通告させていただいております。一般会計においては多岐にわたりますので、多少強引なこじつけと思われるかもわかりませんが、通告しておりますので御容赦お願いします。

最終日の最終バッター、私、実は今回三度目の最後のバッターでありまして、過去２回は凡打でアウト、ゲームセットというような中で、三度目の正直ではありませんが、今回は逆転サヨナラ打を打って終わりたいと個人的には思っております。ただ、教育についてはデリケートな内容にもなりますのでそうもいかないかもわかりませんが、最後までよろしくお願いします。それでは、質問に入らせていただきます。

私たちが住むこの武雄は、言わずと知れた観光のまちであります。地域活性化、つまり武雄の知名度アップ、だれもが望むところであります。この知名度をアップさせる取り組みについては、先般、某市長が出版されたようであります本も、これもまた地域活性化の一つの、武雄の知名度をアップさせる一つの要因になるのではないかなと思っております。ただ残念なのは、ツイッターのほうではかなりこの話題に触れられておりまして、これ自体は本当にすばらしいことだなと思うんですけど、そこで「ネットで予約しました」とか、そういうのを見ると、市内にもすばらしい本屋がたくさんあるのに残念だなと。ぜひ御購入の際は地元の商店、本屋さんを御利用いただければ、なお一層地域の活性化につながるんではないかなと思っております。

さて、今回私はその知名度アップ、武雄の知名度アップにつながる新しい取り組みを１つ御提案させていただきたいと思います。

皆さんはナンバープレートと聞いて何を御想像されるでしょうか。恐らく皆さんは、お持ちの自家用車のナンバープレートを想像されるんではないかなと思います。車のナンバープレートといえば決まり切ったものでありまして、そのナンバープレートですけれども、車検の必要のない車、いわゆる50ccの原付バイクや、90cc、125ccといったバイクのナンバープレートの交付自体は各自治体、市で行うものでありまして、これは関係機関との協議は必要になりますが、各自治体さまざまなものをナンバープレート、独自性のあるナンバープレートを交付できるというような取り組みが広がりつつあるようでございます。広がりつつあるといっても、まだまだ数は限りなく少ないものでありますが、私が調べたところ、各地個性的なものが多々あるようでございます。一部御紹介したいと思います。

（パネルを示す）ここでパネルを使うのは初めてで、ちょっと勝手がわからないとこですけど、ごらんのように各自治体いろんなナンバープレートがあるようです。箕面市、大阪で

すかね。それから気仙沼市、こちらのほうではもう既に実用化されているということで、それ以外にも松江市とか三条市、神戸市とか玉野市とか、こちらのほうは今現在デザインを公募されて、デザインは決定し実用化に向けた準備を進められているというようなところであります。こういう感じですね。で、こういう取り組み自体が私は非常におもしろいなと思うところでありまして、これに対して市長の考えを伺いたいところでありますが、私が調べる範囲において、佐賀県はおろか、九州で実用化に向けた取り組みというのはあっていないようでございます。

武雄市では現在、原付バイクの登録台数が3,000台弱という話を伺っておりまして、現在、費用を負担して車に広告をするというような取り組みはちらほら見かけますけれども、これを実現できれば正味3,000台の原付バイクが、原付バイクのほうが多くなるかと思うんですけど、3,000台のバイクが一斉に武雄市の広告看板を背負って町なかをうろうろするというような感じになると思うんですよ。

ただ、これは残念ながら原付とか小さいバイク、125ccぐらいまでのバイクということになりますんで、なかなか県外でのＰＲというようにはつながらないかもわかりませんけど、ここはやっぱり、武雄市は観光のまちでありまして、武雄市内を走っているだけでも、よそから見えられたお客様は、あっ、ここはやっぱり観光のまち、おもしろかねというような感覚になっていただけるんじゃないかなと思っております。こういう新しい観光のまちをＰＲすることに対する取り組みについて、御答弁をお願いしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

ナンバープレートの現況についてちょっとお話ししたいと思いますが、今言われているように原付バイク約3,000台について、ナンバープレートは貸与という形で行っております。そういうことから、廃車した場合には返納していただくと。で、１枚当たり110円かかっておりまして、今御提案の分でございますが、言われるように観光都市としてのイメージアップ、それが市内限定ということでございますので、その効果というものがどうなのかというふうに考えておりますが、財源等、これは金型形成費に150万円程度かかって、数量を多くしなければ現在の価格に達しないということでございますので、一応検討させていただきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

いろいろちょっとやっぱり話を聞いて、例えば箕面市であるとか先行事例、私、市長は知

人ですので聞いてみたんですけれども、それはそれでちょっと、箕面市の場合が人口は10万超しているということで、結構パイがあるので、それは効果があるかもしれないけれども、先ほど武雄市の実例を言ったら、そもそもパイがそんなに多くないと。それで、ちょっと聞きながら考えたんですけれども、例えば山口昌宏議員、きのうの朝には宮崎におり、きょうの朝は熊本におって、こういう回遊される。（発言する者あり）

そうすると、これを例えばステッカーで、もうこれは金型とかかかりませんので、同じものを例えばステッカーにすると、これが市外、県外のアピールになるんですよね。武雄市内でするというのもそれは否定しませんけど、県外でこういうのを見て、例えば御船山楽園のライトアップ、あれは物すごく評判だったんですよね。来年ももっと大きくやられるという話なんですけど、そういったことを外でして、その方が「ああ、じゃ見に行こう」というようにすれば、費用対効果はさらに上がるのかな。

これを実際やっているところが、アメリカはそれをやっているんですよね。杉原前議長とセバストポールに行ったときに、結構車の後ろに観光のこう――格好いいんですよね、デザインが。あれを見たときに「行こう」と、杉原前議長と固く約束をしたんですけど、約束はまだ果たされていませんけれども、そういうふうにやっぱり外で、回遊じゃないですけど、見せたほうがいいのかなとは思うんですけどね。

そうすると、先ほどの話に戻るんですけれども、多分ステッカーだと、最低でも金型の形成の10分の１ぐらいでできると思いますので、それをとにかく市外、県外に――公用車もそうなんですけど、行かれるところに例えば好きなステッカーを張っていくといったほうがいいのかなと。我々が若かりしころ、ステッカーは一時期はやっていましたもんね。大体20年置きぐらいにまたブームが来ますので、ブーム・イズ・カミング（発言する者あり）ステッカー、どうでしょうかね。（発言する者あり）

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

ステッカーですね。私がこの事例を見つけたときが、バイクのナンバープレートというところで、その取り組み自体をいろいろ探しておったところだったんですけど、今もう実施されているところで、もう既にやられているところの情報をずっと調べておったら、国の地域活性化・経済危機対策臨時交付金の対象でもやられているというようなところもありますので、取り組み自体おもしろいなと。

想像したらですよ、武雄温泉駅をおりたときに、今の北口はれんが調の駅がだんだんでき上がりつつ、ずっと形になってきておるですよね。また楼門のほうに行きよると、目の前に楼門が出てきたと。で、町なかをぱっとすれ違うバイクのナンバープレートに楼門の形がなっておったりとか、温泉の形がなっておったりというふうになれば、「ああ、観光のまちに

来たな」と、お客さんにも大分ＰＲができるんじゃないかなと思っておりまして、今回こういう質問をしました。

さらに、武雄でいえば、おしくらマンですよね。おしくらマンが今全国のゆるキャラコンテストですかね、そういうふうに武雄としてはおしくらマンが出ておるように、ずっと数がふえていけば多分こういうナンバープレートのコンテストみたいなのが開催されるんじゃないかなと。そうなったときに、やっぱり先進地として取り組んでおかんと、それで行政視察とかでもまた見えられるかもわからんし、九州でナンバーワンで取り組んだぞというような実績も必要かなと思いますけど、その辺についても市長、答弁をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、それはやっぱりそのとおりだと思いますね。やっぱりフィーリングが合いますね。

あの「龍馬伝」の龍馬の主人公をされておる福山雅治さんが東京ＦＭで「武雄のおしくらマンはすごかばい」て言うとんさあですもんね、ああいう影響力のある方が。そしたら、「おしくらマンて、何ね、何ね」というふうに、わぁーっと広がとおとですよね。

ですので、あのおしくらマンは、私が市長に就任させていただく前のキャラなんですけど、やっぱり人の気持ちを、福山雅治の気持ちまでつかむ力があるということ、これは結構有名な話ですもんね。ですので、そういう意味でいうと、武雄温泉駅をおりればおしくらマンが歩いていると、どうやって歩くかはちょっとまた別にして、そういう意味で、おりたときに何か武雄らしいねということが、先ほどちょっとおしくらマンの例を出しましたけど、それはいいことだというふうに思うんですね。

先ほどの全国大会を、例えばＢ－１グランプリが久留米であったりとか、いろんなところであったりしているんですけれども、やっぱり元祖じゃないとそれはなかなか無理なんですけど、もうあれですもんね、50ccのとはどこでんしよんさっけんが、何かそういうふうにキャラクターになるもので選手権大会というのは考える、そしたら人が来ますもんね。それで、それはツイッター学会とは別にちょっと考えたいなと思っています。ステッカー大会。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

やるからには九州でナンバーワンになるところってどこかなと想像すると、やっぱり武雄やなかとかなと思いながらこの質問をさせていただきました。

続きまして、また全然色が違うところに行きますけれども、不妊治療について質問させていただきます。

これまで県の不妊治療支援事業が実施されておりまして、昨年10月より県の助成に加えて、

さらに市独自でも助成を実施し出したわけですが、まず、この助成の内容について伺いたいと思います。詳細を説明お願いします。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

不妊治療についてでございますが、武雄市では先ほど議員おっしゃっていただいたように21年の10月、昨年の10月から県の不妊治療支援事業の助成を受けた方を、それでもう１つが、武雄市に１年以上住んでいる方を対象に１回につき10万円、年度内２回を限度に助成を行っております。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

年間最大２回まで、助成額１回最大10万円ということですね。これは昨年度の決算において支出されている金額というのが70万円ということになるかと思います。これについての詳細を伺いたいと思います。この70万円というのは、延べ人数で７人の方に助成した金額が70万円になると思いますけれども、この７名という実数は、延べ人数は重複されている方もいらっしゃるのか、それともすべて別々の７人の方に支出されているのか、それについて御答弁をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

実数７名でございます。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

実数７名ということであれば、それぞれ違う７名の方に助成をされたということですね。となると、その７名の方のその後の状況といいますか、経過というか、そちらのほうの情報をつかんでいられるかどうか、答弁願います。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

７名の方に助成をいたしました。その成果につきましてですが、お二人の方が妊娠をされております。また、今年度も引き続き２名の方が申請をされているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

７名のうち２名が妊娠されたということは、すばらしい結果じゃないかなと私は個人的に感じます。また、それ以外の２名の方が継続してまた申請を行っていると。ぜひ何とか頑張っていただきたいなと思います。その中で、出産までたどり着いた方とかというのはいらっしゃるんでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

昨年度のお二人の方のうち、お一人の方は出産をされました。もう一人の方は、不幸にも流産という形になられておりますけれども、まだ頑張って治療をされているようでございます。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

出産された方は本当よかったなと思います。残念な結果に終わられた方も本当、物すごく精神的な負担もあるし、経済的な負担というのも重くのしかかっている中で何とか頑張っていただきたいなと思います。

効果を聞いたときに、本当にこれは助成する意味があるなと私は個人的に、もう本当によかったなという感じがどんどんしてきておるところでありまして、今年度はそしたらこれまでの状況――今12月ですからあれですけど、今年度の現在の状況、またその後の経過、どういう状況かというのはわかりますか。答弁願います。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

今年度の助成の状況でございますが、11月末時点で７名の方で８件の申請があっております。で、80万円の助成を現在まで実施しております。そのうち３名の方が妊娠をされているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

７名の方で３名が妊娠をされたと、何とか頑張ってほしいですね。この制度自体、物すごくすばらしかなと私は個人的に感じております。これはそしたら来年度予算、幾らぐらい見込まれているのかというのは、現在の状況とこれまでの経過と踏まえて算定をされるんじゃ

ないかなと思いますけど、来年度、何人ぐらいの分を見込まれているかというのはわかりますか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これから市長査定と予算の編成作業に入りますけれども、今までの実績と、さらにこれが口コミで広がっているということがありますので――訴訟費用はありますけどね、これはやっぱり命のとうとさを比べて、これは平野議員とか江原議員は記者会見されていますけどね、これは別として、私たちとすれば24件分の予算を立てて、一人でも多くの命がまたできるようにしたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

24件分ということですね。当然24件オーバーした場合は、補正を組んででもそれは対応するんでしょう。

それと、私のところにも「上田さん、おいも我が子ば抱きたか」て言う人のおんさあとですよ。多分、市長にもそういう同じような声が届いているんじゃないかなと思うんですけど、それも踏まえて、この制度自体も踏まえて市長の見解をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

大体例年、先ほど申し上げたように、この２年で７件から８件ですので、この24件を超すというのはなかなか考えにくいというのはあるんですが、制度の一つとして、なかなか授からないという方に対して、どういうふうにもう一回御支援をするかというのもあわせて検討したいと思っております。もとよりこの予算のオーバー等については、これは本当に必要だと思っていますので、議会の御理解を得て予算をまた支弁したいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

これについては本当に精神的な負担、経済的な負担というのがあるもんで、私はこの場でこういうやりとりをすること自体が、あきらめていた方に対して、またもう一回頑張ってみろうかなというような啓発にもつながるんじゃないかなと思いますんで、ぜひ充実させて、この制度の広報をもっと広めていって、口コミだけでもどんどん広まっていくような環境に

なればなと思っておりますので、ぜひよろしくお願いします。

続きまして、今度は文化会館の周辺整備についての質問をさせていただきます。

文化会館も老朽化を考えていかなくてはならないような時期になっておりまして、21年度決算ではＬＡＮシステムの構築などありましたけど、修繕費用など今年度総額4,300万円ほどかかっておるような状況で、維持費を含めると２億円を超えるような費用がかかっているというような話を伺っております。

そういった武雄市文化会館ですが、武雄市の文化活動においてはなくてはならないものなんですよね。その文化会館も駐車場においては、文化会館のキャパと比較すると極めて少ないような気がします。現在でも、人気があるようなイベントを開催されると、駐車場はいっぱいいっぱいというような状況に陥ると。あしたも社団法人武雄青年会議所が主催でソフトバンクの小久保選手を武雄市文化会館にお呼びするんですけど、これは小ホールなんでどうかなとも思いますけど、恐らく駐車場はまたいっぱいになるんじゃないかなと思っています。

ただ、この駐車場のことも簡単に解決できるような問題じゃなくて、周辺もそんな土地もなくて簡単に解決できないなというのがもどかしい部分があるんですけど、そういう中でも今ある限られた駐車場も、より使いやすいような状況に環境を整えることが必要だなと私は思っております。

そういう中で、文化会館の西側の駐車場ですね。県道武雄塩田線の横、文化会館から上がったところの道を挟んだ反対側のところですね。あそこがどうしても利用勝手が悪過ぎるというお話をよく私耳にするわけですよ。入りづらいし、出づらいというものなんですけど、こんな声がとにかく多くて、ちょっとパネルを使用させていただきます。

（パネルを示す）これでわかるですかね。もう１個用意したとですけど。

〔市長「わかる」〕

わかるですか。

〔市長「うん」〕

ここは、とにかく入り口が一番手前のこっちにああとですよ。出口がここに、かろうじて車が１台出れるぐらいのスペースがあるとですけど、ここ以外は段差があって、全く入りづらかし、出づらかし、ここに車が今とまっているんですけど、これ自分勝手にとめとんさあわけじゃなかとですよ。これをよう見れば、ここに白線のちゃんとああですもんね。そいぎ、こっちから入ったらＵターンして出るとかというふうで、物すごく形状的にもですね。これ平面図を見せていただきました、担当課のほうに行ってから。そしたら、上から見たら御船山のごたあ形をしとっとですよ。こうなって、こうなってというごたあふうで。だけん、なかなかこれ簡単にはできんかなとは思うとですけど、ただ、できる範囲でこの利用状況を改善せんといかんのじゃないかなと思いますけど、これについてどうでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに、横から見れば柏岳のごと見えるですもんね。だから、できない理由より、できる理由ということで、まず白線の引き直しと、やっぱり進入と退出の方法もちゃんとサインで明示してする必要があるだろうと思っています。確かにあそこ、事故が起こりそうになったところを私もジョギングのときに見たことああですもんね。ですので、それは構造の部分を変えられるかどうかというのは公安委員会とも調整しますけれども、まずできることをきちんとやりたいと思っています。

その上でぜひお願いがありますのは、文化会館で催し物があるときに、一家族で３台で来んさあところのあるとですよ。お父さんとお母さんと娘さんとかと。これはやっぱり同じ家族は乗り合わせて来ましょうよ。そうせんと、幾ら駐車場をつくっても、その分だけまた、ああ、あそこにああけんが――家族は仲よく、隣人とも仲よく、皆さんと仲よくが大事かなと思っていますし。

それともう１つが、休みのときというのは競輪場しかり、あるいは白岩運動公園しかり、市役所のところもそうですけど、30未満の方は遠くのところにとめて歩きましょうよ。なるべく近くのほうは、60過ぎた方とかはなるべく近くにして、それで助け合いの精神をしたいなというふうに思っています。みんな仲よく、これが一番。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひ御検討をよろしくお願いします。ただ、形状等でですね、その白線を引くときも台数が減らんごとなるべく頭を、アイデアを出せば何とかあるんじゃないかなと思いますんで、ひとつよろしくお願いします。

続いて、その周辺の道路整備事情についてでありまして、これについてはこれまで議会でも出てきておるところなんですけど、実は私も水面下でいろいろと動いてはおったんですけど、この武雄高校から競輪場へ向かう通りですね、その駐車場の前の通り、県道武雄塩田線と、それと川登方面から梅林横を通って小鳩の家保育園横までおりてくる市道平原梅林線ですね、この交差点。御船が丘小学校の通学路とかというところの関係もあって、またさらに交通量も多いため、こちらに信号機の設置を希望するものなど、これまで私以外にも数多く質問されてきたと思いますけれども、これも写真を一応撮ってきました。

（パネルを示す）すみません、きのうの夕方慌てて撮ったもんですから。ただ、私もそうなんですけど、市道何とか線と何とか線の交差点と言われてもなかなかぴんとこんとですよね。（発言する者あり）その交差点です。これについて、ここに信号機の設置を求める要望等が過去数度あったんじゃないかなと思いますけど、これは今の現状はどうなっているのか、

確認をさせていただきたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

これまでの経過でございますが、平成14年の５月30日に当時の御船が丘小学校の校長先生、それから育友会の会長さんから要望書が提出されております。この要望書については地元の総意ではなかったと、地元の同意がなかったということで設置には至っていないということでございます。そういうことから、信号機の設置に当たっては地元の総意、いわゆる周辺住民の、あるいはそこの事業所等も含めて、その同意をもって要望していただきたいというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

14年の５月に小学校長、そしてその当時の育友会長――校長先生も当時の校長先生から要望書が提出されたけど、地元総意じゃなかったと。そしたら、この地元の総意がとれなかった、同意がとれなかったということは、はっきり言えば、このままずっと待っておったけんて先に進まんよという話ですかね。そこをもう一回確認しておきます。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

信号機の設置に当たりましては公安委員会の所管であるということから、公安委員会としては地元の総意をもって要望書を提出していただきたいということでございますので、おっしゃるとおりでございます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに制度的に言うと、その要望書が来て県の公安委員会に出して、設置されるまで数年間かかるんですよね。ですので、私もちょっと近くを通ったことあるんですけど、小鳩の森保育園でしたっけ。（「小鳩の家」と呼ぶ者あり）あっ小鳩の家、小鳩の家保育園さんにもう少しやっぱり考えていただきたいとも思うんですよ。というのは、いや、実際送迎のときとか見ていると（発言する者あり）いや、これは私の見解ですよ、いろんな人から言われていますけど。そこはやっぱり利用者も気をつけんと、やっぱりできないことよりできることからやったほうがいいと思いますよね。ですので、そういう意味で小鳩の森保育園の（「小鳩の家」と呼ぶ者あり）あっ失礼、小鳩の家保育園の協力をぜひ求めたいなと思います。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

地元の同意が必要だと、地元の総意としての要望書を出してもらわんと前に進まんということですね。であれば、やはり通学路として利用している子どもたち、また地元で生活されている方の日常をよく考えて、地元で早急に答えを見つけてほしいものだなと思っております。

その関連ですけど、この前、先日の日曜日、私その付近にずっとおったわけですよ。そしたら、びっくりしたとが、武雄神社の横の大楠ば見に来よんさあとやろねと思うとですけども、その前に駐車場のあるじゃなかですか、あの駐車場に大型バスのひっきりなしやったですもんね。もう何台も何台も、それも１台、２台じゃなくて何台も何台も入れかわり立ちかわりどんどんどんどん入ってきて、私も何人かの人と一緒になって「あの人たちは何で来よんさあと」て。そいぎ、みんなやっぱり大楠のほうに行きよんさあとですよ。

ただ、そこで問題なのが、あの駐車場にバスをとめられて、バスガイドさんが旗を持って先頭を来んさあですよね。その人が動きんさった後に観光客の人がぞろぞろと来んさあですけど、横断歩道ば２回渡らんばとですよ。

これもちょっと撮ってきました。（パネルを示す）これもまた昼間撮っておったとですけど、こっちがわかりやすかという声をいただきましたので。これがその駐車場から、こっちが武雄神社のほうですよね。そしたら、この駐車場にとめて、バスガイドさんがこう渡るときに、ここは横断歩道なかわけですよ、もちろんですけど。今はなかとですよね。そいぎ、この人たちがどがんやって行きんさあかといえば、この横断歩道ば１回渡んさって、車ば見ながらまたこっちの横断歩道ば渡ってと、２回渡らんばですもんね。これ梅林とかに行くときもそうなんですよ。

今さっき市長が言いんさった、保育園の送迎も考えてもらわんばというときは、やっぱり車をとめるところてここしかなかろうけんですよ。この人たちもまた１回渡って、２回渡ってと、ぐるっと回らんばごたあ格好になるとですよね。この横断歩道ばこっちにずらせば、武雄神社の前のとば駐車場の前のほうにずらせば、１回で皆さん渡られるとですよ。

そのときの日曜日の光景も紹介すると、バスガイドさんが旗を持って行きよんさあぎ、バスガイドさんはもう渡ってしまっとったです。その後ろについてきよんさっ観光客が、こっけもたまり、ここにもたまり、バスガイドさんと一緒に渡った人と、３分団に分かれんさったごたあ感じですね。これは観光地としてマイナスやなかかねと私は思ったとですけど、ぜひですね、地元の同意が必要かとなれば、ここも一緒に考えてもらいたいなというところがあるんですけど、これについてどう思いますか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは観光地としては、ほぼ０点、マイナス２万点ですね。やっぱりこういう気配りというか、きめの細やかさがあって観光地、その着眼点がやっぱりすばらしい。そういうことで、ぜひ私たちとすれば、これはちょっと地元ときちんと話をしますけれども、信号機の設置等と比べると横断歩道は、同じ公安委員会の許可事項ですけれども引くだけですもんね。ですので、これは早速地元と協議に入りたいというふうに思います。これは単に地元の安全・安心じゃなくて、今武雄の大楠はシンボルになりつつありますので、武雄の顔として、やっぱり横断歩道もすばらしかばいというふうに言っていただけるように努力をしたいと、このように思います。御指摘ありがとうございます。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

私も何回もこの声をいただいておって水面下でいろいろ動いておったんですけど、「地元にもおんさあけんですね」て言われて、なかなか私も表に出れない部分があったもんですからですね。（発言する者あり）そういうところで、ぜひ早急な協議をお願いしたいところで、次に行きます。

続いて、消防行政について。

平成21年度の消防費総額７億4,000万円程度、これについては杵藤地区広域消防負担金がおよそ６億円かかっているような状況でありまして、まず、こういう状況で消防費にはこれだけかかっているなと。

消防について御存じのように、およそ半年後の５月31日末日をもって火災報知機の設置が義務づけられております。武雄市では昨年度、まず2,880の高齢者世帯に1,400万円ほどかけ、火災報知機の無料配布及び消防団の皆さんの御協力により設置まで実施されました。そういう中で、現在の武雄市内の火災報知機設置率のほうはどうなっているか、答弁願います。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

平成22年の８月現在、消防本部の調査で43％の設置率でございます。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

43％。これは高かとか、低かとか、なかなか私も43％というと物すごく判断に迷うところ

の数字ではありますけど、12月の市報に配布されているこちらのビラですけど、（発言する者あり）こちらですね。（ビラを示す）各家庭に市報と一緒に入っているんじゃないかと思います。

１月14日を締め切りに各区で購入申し込みの集約がなされているようでございます。これについての実施方法といいますか、どのようなことで考えられているのかの答弁をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

12月１日に啓発のパンフレットと申込書を全戸に配布いたしております。言われるように、１月14日までに各区で集約していただいて、市の総務課のほうに注文数を報告していただきたいというふうに思っております。その後、たびたびですけど消防団に御協力をいただいて、各戸に配布して取りつけまでするという形になろうかと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

共同で予約をとって購入して、また地元の消防団に設置まで、希望者の方は消防団にまたお願いをするということですね。消防団が前回したときも、やっぱり１件につき結構時間がかかあわけですよ。「こっけつけてください」と言いんさあぎんた、私たちも消防団で地域の安全・安心を守るためやぎ、やっぱりそこまで、言われたごとまでしてやりたかなと思うてずっとしよったら結構時間がかかるですもんね。何日間か消防団でも担当分けして出ていくような感じでしよったとですけど、今回もそういうことで考えられていると。消防団もその使命を持って皆さん日夜頑張っていただいているんで御協力いただけると思うんですけど、これは今後はどういうふうな感じになあですかね。

５月末が締め切りで今回こうして募集をして、市で一括して購入してまた配布となりますけど、話を聞いていると、事業完了は２月末ぐらいをめどでと思っているというふうな話を聞いていますけど、５月末が期限となると、まだ３カ月ぐらいあるわけですよね。ただ、しょっちゅう、しょっちゅう消防団の人にまたお願いも難しいかなと。ただ、自分で購入して自分でつけられる方はそれでいいかなと思うんですけど、これは今後もまたそういうのを何か用意するつもりなのか、それとも市のほうでやるのはこれが一定の区切りですよという考えなのか、まず答弁をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

設置の期限というのが来年の５月31日ということで言われるとおりでございますが、今後でございますが、これが最後の共同購入でございます。ぜひ今回の共同購入を利用して設置していただきたいと。今後は個人さんでお店から買っていただいて、自分で取りつけていただくというふうな形になろうかと思います。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

もう最後の共同購入ですね。

〔政策部長「はい」〕

そしたら、もう市民の人たちは本当に、この警報器も単独型とか連動型とかあって、単独型やったら簡単にそれば取りつくっだけですむやろうけど、連動型もいろいろあるとかどうか私もちょっと、連動型の取りつけはしたことないものですからわかりませんけど、とにかく地元の消防団にお願いできるのは今回が最後のチャンスというところですね。はい、わかりました。

続いて、消防についての２点目ですけど、消防団においては消防活動、水防活動に日夜御尽力をいただいておるわけですけど、そういう中で現在、各部ともに毎月機械器具点検や火災予防の広報活動に御尽力いただいておると思います。この広報について現在、「こちらは地元の消防団です。火災予防の広報を行っております」というようなアナウンスがあるかと思うとですけど、このアナウンスの実施方法というか、状況ですね。広報活動の方法についてというか、これについてはどうでしょうか、答弁をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

広報活動の実施日でございますが、春の火災予防運動期間３月１日から７日まで、それから秋の全国火災予防運動期間11月９日から15日まで、それから年末警戒12月28日から30日まで、基本的に行っております。ただ、分団によっては出初め式、あるいは訓練に合わせて実施したり、火災が多く発生したというときに自主的に広報活動を実施していただいております。それは広報ですから、拡声器を使ってということになります。これは直接マイクで生の声で放送したり、カセットテープで録音したものを流したりという、そこはまちまちでございます。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

今答弁があった、カセットテープで流したり、生でしゃべりながら行ったりというところ

ですね。実は私が聞いたところ、テープがカセットテープなもんですから、もう伸び切ってうっかんげてどがんもされんという話をよく聞くわけですよ。皆さん多分御存じだと思いますけど、昔、演歌歌手のカセットテープの白かごたんとに、そがんとに入っとおとですよ。そればひたすら毎回、回るたんびにぐるぐるぐるぐる再生してと。今、教育の環境の中にｉＰａｄ（アイパッド）を入れたりとか、デジタル化が進んでいる中で、「物すごくアナログね」と言いながら笑いよったとですけど。笑いよったらいかんとですけどね。「そしたら、カセットテープの新しいのをもらいんしゃい」て言うて話をしよったら、もう市も持たんと、在庫ないと。「そしたら、生産は」と聞いたら、もちろん生産のありよおわけなかとですよね。

そしたら今、ＤＶＤとかブルーレイとかと言いよる時代に、ビデオテープでぐるぐるぐるぐる何回も見よるような時代なんで、これは日ごろ御活躍いただいている消防団の皆さんにはちょっと手厚くやっていくべきじゃないかなと思うとですよ。実際、生でしゃべれと言われても、夜回るとが多かけんが原稿を見れんわけですよ。しゃべりきる人はよかですけど……

〔市長「しゃべりよる」〕

いや、私は大概運転手ばさせらるっもんやけん、大体運転しよおとですよね。そいけん、そういうふうで、ちょっと今回、ＭＰ３プレーヤーというとば使えるかどうかばうちの部で試したとですよ。これ使えるとですよね。ちょっときょう持ってきました。（現物を示す）

これはめちゃめちゃ使い古しとおとですけど、これで消防積載車につないで鳴らすぎんた、この中にデータば入れてすればできるとですよ。しかも、今まではカセットテープでぐるぐる同じんとばっかりやったですけど、今回これば活用すれば、きょうは秋の火災予防週間で回っていますよとか、きょうは出初め式の終わって新年のあいさつで回っていますよとかというようにして、そこはずっといろいろ対応でくっとですよね。これを武雄市で一括してすれば、市内全域みんな同じ共有のアナウンス、文言を使ってできるんじゃないかなと思うとですよ。「これは費用幾らすっと」て話聞いたら、「いや、1,000円もせんですよ」て。

〔市長「うんにゃ、2,500円ばい」〕

という話やったけんが、それならこれはぜひ対応してやらんばいかんとやなかかなと思うとですけど、これについて答弁をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、まさかですね。ごめんなさい、本当不勉強でですね。今、希少価値抜群のカセットを使われているというのは、ちょっと不明にして知りませんでした。本当にこれは消防団員の皆さん方におわびを申し上げたいと思います。本当に何かそういう取り残されたような環

境で、本当にそれは声を上げていただいて、我々としても物すごく胸にじーんと来ました。

それで、ＭＰ３プレーヤーについては消防交付金で導入します。その上で、1,000円とおっしゃっていましたけど、大体2,500円、3,000円ぐらい（「ピンキリ」と呼ぶ者あり）ピンキリですもんね。ですので、それは購入をいたします。

それで、ＭＰ３プレーヤーのいいところは、すぐ更新ができるということと、あれは時間にして何かな、メモリーにもよりますけど、24時間しゃべりっ放しでもよかわけですよね。ですので、いろんな用途、そして地区別にこれをすることも可能ですので、船の原は船の原、川良は川良、北上滝は北上滝というふうに、そういうこともできますので、それはぜひ導入をさせていただきたいと思います。御指摘ありがとうございます。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひお願いします。これ消防交付金と答弁で言われていますけど、制度設計はこれからだと思いますけど、今答えられる範囲というのは、まだまだ全然――よかですか、答弁をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは前大坪団長と、そのときは末藤副団長も入られていましたけれども、やっぱり自由度が欲しいということ。一々我々が査定をして、実際本当に必要なのはこっちのほうだというよりは、一定の交付金を交付して、その中で決めてもらうということで制度設計をしようとしていたんですけど、そこで来たのが訴訟なんですよ。もう本当に困ります。

ですので、その中でどれだけの額がそこに充てられるかということは今検討に入っていますけれども、極力、２つちょっと考えていて、例えば消防団にかかわるものについても消防交付金で、さっきのＭＰ３プレーヤーのように考える。それとあと分団ごとに、例えばこっちは長靴がいいとか、こっちはレインコートがいいとかということについては、額の算定に応じてですね、こっちは交付をするという二段構えで制度設計をしたいなというように思っています。だから本当にもう住民訴訟、困ります。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

今、消防団は交付金の話でですね、もう待ち望まれています。というのも、結構聞いた話によれば、出動手当を自分はもらわんで、そのまま部の運営費に回しておる人たちがほとんどらしいんですよね。だから、そういうので備品を買ったりとかいう話を聞いたりすると、

ぜひそういうふうにお願いしたいなと思っております。

続きまして、競輪事業について入りたいと思います。

競輪事業といえば、もちろん特別会計にはなるんですけど、過去幾度となく、合計150億円という金額を一般会計に繰り出してきた経緯からこの質問をさせていただくわけですけど、さきの11月30日、新聞報道に衝撃の記事が掲載されました。武雄競輪６年ぶり赤字、金額にして１億8,000万円というものでありました。

常々競輪事業については、私もこの席でいろいろと御提案したり御質問したりさせていただいておりましたが、今回のこの記事、「不景気　記念レース売り上げ不振による赤字」というような見出しがあったと思います。表だけはここにあるんですけど。もちろん単年度で見れば１億8,572万円という赤字があるかと思いますけれども、この赤いグラフを見る限りにおいては、やっぱり単年度で見るべきじゃなかかなと私は思うわけですよね。中期的というか、一定の区切りをつけて見らんといかんなと思いますけれども、ただ現時点でこういうふうな情報が出ておりまして、平成21年度の赤字１億8,000万円というのは動かないところなのかなとなると、平成21年度の赤字の主な要因と武雄競輪の現状について確認をさせていただきたいと思いますので御答弁お願いします。

○議長（牟田勝浩君）

林営業部理事

○林営業部理事〔登壇〕

先ほどの佐賀新聞の１億8,000万円のマイナスということでの報道ですけれども、売り上げというよりも収支の面で御説明申し上げたいと思います。

（パネルを示す）ここにありますように、平成12年度から佐賀新聞に出ております。ここでピンクの数字が佐賀新聞で出た単年度収支です。それと水色の数字が実質的な単年度収支ということで、これが基金の繰り入れとか基金の積み立てとかが入っていないのがピンクでございます。実質的な単年度収支を見ますと、平成14年、15年、16年ということで基金の繰り入れを行っております。昨年度、平成20年度、これにつきましては２億5,000万円の基金積み立てをいたしまして、実質収益的には3,400万円程度収益が出ております。

その中で、主な要因ということで申し上げますと、この表にもしておりますけれども、１億8,000万円の主なものとしましては、特に記念競輪、これが前年度93億円の売り上げが21年度は71億円と、22億円の減ということで、かなりの売上減が生じました。その分で約8,000万円程度が収益減と。それとあわせまして、逆に平成20年度の売上収益が出ておりまして、公営競技の納付金制度、これが前年度から制度的に変更がございまして、20年度の収益分について21年度で支払うというふうなことで、この分の負担が約4,000万円、それと売り上げが多かったということで選手賞金が１号から２号に繰り上がったということで、この負担が約6,000万円ということで、主な要因としてはこの合計１億8,000万円程度ということになり

ます。

ただ、売上的には、平成17年度にふるさとダービーを実施いたしまして約193億円の売り上げがありましたけれども、現在は115億5,000万円ということで減少はしております。ただ、17年度、ふるさとですのでちょっと特異性があります。平成16年でしますと117億円ということで、若干の目減りというような状況で推移をしております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

補足をいたします。

私は11月30日火曜日の佐賀新聞の記事はちょっとどうかと思いますよ、本当に。というのは、これを見出しで、地元紙ともあろうところが武雄競輪６年ぶり赤字と、こんな大きく書いてね、これ見た人ね、私、心臓２回とまりましたよ。これはルールがやっぱりあって、これ書くときというのは、確かに過去、現在のことはきちんと書いてあるんです。これについてどうこう言うつもりはありません。しかし、これは見通しを書いてあげないと、見通しを。23年度は少なくとも赤字にならないとか、黒字になりますということを書かないと、あるいは赤字になるかもしれないけれども、それを書かないと検証にならない。

それともう１点が、普通この手の物すごく、これ病院と並ぶような市政の重要事項については、少なくとも担当者の意見を聞かなければならない。これは最低でも管理者である私の意見を聞かなきゃだめですよ。そうしないと、一方的にこれね、もう未来も希望もないもん。だから、そういうことはぜひ佐賀新聞の方、わかる記者さんたちばかりですので猛省してほしいと思いますね。

それと、これにも記念レース売り上げ不振と書いてあるんですけど、これは全国的な比較がやっぱり必要なんですね。これはどういうことかというと、例えば、私どもは林理事が一生懸命引っ張ってきて共同通信杯等しましたけど、ほかの自治体、競輪と比べると売り上げはいいんですよ。これはとりもなおさず、うちの職員であるとか、あるいは競輪従事員の皆さん、そして、なかんずく競輪を実際行っている選手の皆さんたちの努力のおかげなんですね。ですので、我々とすれば厳しい状況には変わりありませんけど、一歩でも二歩でも進んでいますので、これはぜひ……。

これ出た瞬間、私言われましたよ。家から出てきた瞬間、「市長さん、競輪やむっとですか」と言われてですね。やめませんよ。だから、それだけの社会的な影響があるということについては、これは私の答弁もそうですけど、言葉はいつも選んで私は言っていますけどね。そういうことをぜひ社会の皆さんたちと一緒に共有をしていきたいなと思っています。

いずれにしても競輪事業は武雄市政にとって本当に大切な事業でありますので、腰を据え

て林理事以下、職員とともに頑張ってまいりますのでよろしくお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

全国的に競輪事業を見ても、武雄競輪は頑張っているというところですね。私はこの記事を見て、20年度の反動が出たとかなとは思いよったとですよ。20年度はおっそろしゅうよかったというような感覚があったところがあってですよ。売り上げ減による8,000万円。選手賞金の負担増分が6,000万円となっておる。これやっぱり売り上げがよかったら選手もいい選手がいっぱい来てもらえるわけでしょう、武雄に。でも、いい選手を呼ぶためにはたくさんの賞金を払わんばいかんわけでしょう。そのための支出増があっとおわけじゃなかとですかね。私はそういうふうに見ておりました。公営競技納付金負担増も、結局は前年度の売り上げがよかったからということで来とおわけでしょう。その次の年に売り上げが落ちているというところが痛いところなのかなとは思いますけど。そしたら、これについて来年度、今後の競輪事業の見込みというか、競輪の見込みについて御答弁願いたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

林営業部理事

○林営業部理事〔登壇〕

競輪の今後の見込みでございますけれども、１億8,000万円のマイナスというのは、昨年度の記念競輪の終わった時点で売り上げが少なかったというような状況の中で、ある程度、かなり支出が出てくるなということで認識はしておりました。

そういう中で今年度、平成22年度から武雄競輪、平成15年から宮崎、鹿児島含めてサテライトを設置しております。このサテライトの委託の内容を変更してきたということで、これにつきましては収益を確保してリスクを回避するという経営の改善を行ってきたということと、今年度４月の記念競輪、これにつきましては売り上げがある程度伸びて、81億円という売り上げでございます。こういう状況を見て、今年度については黒字基調で推移ができるのではないかということで考えておりまして、一般会計からの繰り入れとか、そういうものは当然ないということでしております。

また今年度、21年度、これだけ赤字ということで出ましたけれども、中期的な考えでいけば、昨年２億5,000万円の基金の積み立てをしておりますし、現在の基金残高といたしまして７億8,200万円程度ございます。そういう中で、収支のバランスがここ近年の中で大きく崩れることはないというような認識をしております。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

わかりました。ありがとうございます。ただ１点だけ、私からもこれについてちょっと話をさせていただきたいんですけど。

今さっき赤の棒グラフのことを私もちょっと質問させてもらったんですけど、私は常々この席で申し上げているのは、大事なのはこの折れ線グラフのほうだと私はごっとい言いよるとですよね。やっぱり競輪事業も本場に現金がなければ、なかなか売り上げアップも見込めんというところで、私は常々この入場者数のほうをどちらかというと重要視したい部分があるとですよ。

ただ、競輪事業所の皆さんの頑張りでですかね、結構いろんなところでポスターを見たりするわけですよ。だから、「ああ、頑張っとんさあとばってんな」とは思うんですけど、これについて入場者数をふやすための打開策じゃなかですけど、そちらのほうについてはどうでしょうか、御答弁願います。

○議長（牟田勝浩君）

林営業部理事

○林営業部理事〔登壇〕

今、議員御指摘のとおり、売り上げもさることながら、入場者の減というのはかなり厳しいものがございます。そういう中で現在、特に４月の共同通信社杯を開催いたしますので、それに向けて10月から毎月日曜日、３回ですけれども、たけ丸サンデーということでいろんな、競輪ファンのみじゃなくて一般の方、子どもさん、特にバンクで自転車に乗ってもらうとか、それからフリーマーケットとか、そういう形で普通のお客さんにもとにかく競輪場に足を運んでもらおうということで、そういう取り組みを月３回実施しております。

また、１月からは、これは直接本場という形じゃないですけれども、１月から重勝式投票の開始等をやりながら、とにかく、まず４月の共同通信社杯の成功に向けて全力で取り組みながら、ファン層の拡大を図っていきたいというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひ４月の共同通信杯は盛況に終わればいいなと思っております。期待しております。

それでは、教育について入りたいと思います。

今回、教育についての質問としては大きく２つ、ちょっと言いにくい部分もするかわかりませんが、簡潔でわかりやすい答弁をお願いしたいところでございます。

まず１つ目ですけれども、これは上野議員の質問にもちょっと関連する部分もあるのかもわかりませんけれども、上野議員は学校の先生のＯＢの立場ということであれば、私は現在の保護者の立場でいろいろ質問をさせていただきたいなと思っております。

その中で、全国的には本当にさまざまな悲しいニュースが多々報道されており、多くの子

どもたちの命に対して、かなりいろいろあるわけですよね。大阪で起きた２人の幼い子を育児放棄してというような事件があったり、直近では妹が実のお兄ちゃんを殺してしまったりとかというような、本当に目を覆いたくなるようなニュースばかりでありますけれども、中でも群馬県の桐生市の６年生の女の子でしたか、いじめに関係するかしないかというような教育委員会等の報道等もありまして、正直、私個人的にはそこの教育委員会の対応はちょっとあきれておったような状態であります。

ただ、これも武雄市で起きていないからいいというわけではありませんよ。ただ、武雄市で起きた場合を考えると、やっぱりぞっとするわけですよね。だから、それを考えると、何とかしてやらんといかんとやなかかなというともあるですけど、この特効薬というのはなかけんですね。そしたら、最初の質問をさせていただきますけど、現在、武雄市でいじめとか、そういう状況というのはどういうふうになっているのか、答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

いじめについては議員おっしゃったとおりでございます。同様の思いをいたしております。いじめとしてきちんとした、認知して対応したという形の報告は、小学校１件、中学校１件という形でございます。（発言する者あり）

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

小学校１件、中学校１件。この数字の信憑性といいますか、この１件が何を１件指すのだろうかなと私は個人的にちょっと思うわけですけれども、この数字に対しての教育長の考えをお聞かせ願えたらと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

約4,500名以上の子どもたちがいるわけでございます。２件というのは確かにあり得ない数字だというふうに思っております。片方に、報告文書ばかり多過ぎるという御意見も過去からずっと言われてきている状況があります。状況をしっかり知るためには文書も欲しいわけですけれども、極力、報告に追われると、対応をそっちのけして報告を書きよんさったというような状況はつくりたくないと。逆に、教育委員会はこれを知っておったとかという声も来るわけであります。その中で、こちらとして口頭で報告してもらうという例もあるわけであります。

例えば、11月までにいじめ関係――いじめ関係といいますのは、いじめだけということじ

ゃなくて、いろんな要素が絡み合っているとこもありますけれども、小学校で40件、中学校で54件、これ延べ人数ですので同じ子どもの相談もあるわけですけれども、これは学校で担任なり養護教諭なりが何らかの対応をしたという数値は、実数に近い数値かなというふうに思っております。したがいまして、学校として何らかの対応をしたと、１日で済んだと、話し合いで済んだという程度のものを含めますので、そういう形での対応ということでございます。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

小学校40件、中学校54件で、そういう対応をされたということですね。まさにそうでしょうね、これでも少なかかなと私は思うとですけど。だけん、結局、その辺の話を聞くと、小学校１件、中学校１件で発表しよる意味ああとかなと、個人的には感じる部分がありますけどね。

青少年の何かの会議のときに教育長と私もたまたま同席して、教育長は常々「先生の目の届かんところでいじめは絶対ありよおけんがという指導ば徹底しよる」という話ば、「とにかくごっとい毎度毎度言いよる」という話ば聞いたときに、「ああ、よかった、この人が教育長で」と私は思うたぐらいやったですけどね。

ただ、現場になれば、やっぱり子どもたちのＳＯＳに気づけているのかどうなのかというとももちろんあるかなと思うとですよね。ぜひ先生たちには、そのＳＯＳを早く見つけてもらえるように日ごろの指導、教育に頑張っていただきたいなと思いますけど、今現在は小学校、中学校にスクールカウンセラーの配備があっているかと思います。配備というか、皆さんが相談に乗ってやったりとか。これ相談件数的にはどういう状況なんでしょうか、運用実績というかですね。

聞くところによると、結構予約も詰まって、毎日毎日おれるわけじゃないということなんで、結構子どもたちから親から、保護者から予約してまでされているというような話を聞いたりするわけですけど、そのスクールカウンセラーさんの今の状況というか、どういうふうでしょうか、御答弁願います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

スクールカウンセラーの先生は、現在市内の小学校、全校対象に２名、それから中学校のほうが武雄中学校に１名、この方は週に１回ずつ来ていただいております。それから、武雄北中、山内中、北方中、３校に１名。川登中は、スクールカウンセラーという名称ではありませんけれども、同じ役目を訪問支援員の方で対応をしてもらっているという状況でござい

ます。

それから、その先生方ですけれども、先ほど言いましたように、武雄中は週に１回、ほかの学校は月２回の形の訪問になっております。

それから、予約という言葉が出ましたけれども、各学校に教育相談の担当者がおりますので、先生が来られる日の計画表を作成、調整しながら、本当にフルに活動していただいているという状況であります。

スクールカウンセラーと同じような役割で対応していただいている方がほかにいらっしゃるわけでありまして、特に週に１回、月に２回というと、いじめの実態というのは動くわけですので、あと心の教室相談員として市費でお願いをいたしておりますが、武雄中、北方中、山内中に年間105回、それから北中、川登中に年間90回。それから、教育委員会に籍は置いておりますが、訪問支援員ということで実際に機動的に動いて対応している２名、それからスクールソーシャルワーカー１名等々ですね、県の事業でもう１名いらっしゃいますけれども、これは武雄北中、川登中で動いてもらっておりますけれども、極力、子どもたちや保護者の皆さんが少しでも相談していただける体制ということで、先生には言いにくいけれどもとか、あるいは学校ではどうだけれども、家では応じてくれるということでしているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに教育長を初めとして現場の先生方、スクールカウンセラーの皆さんたち、本当によく頑張っていると思います、武雄市は。ただ一方で、やっぱりかわいそうなんですよね、学校の先生方が。いじめというのは、あくまでも教育心理学上でいうと水平な話じゃないですか。例えば、縦の先生とか大人がいじめたりとかいじめるんではなくて、あくまでも水平の子どもたちの中でいじめたりとかいじめられたりというのがあるじゃないですか。

我々が小さいころは、やっぱりあれですもんね。子どもたちの中で何かこう解決があって、ああ、何かおかしかばいということのあって、それでどうしても不可能な場合には学校の先生が登場しよったというような意識を私は持っておっとですよ。私も「いじめはおかしかろうもん」と言うたぎ、私はぶんなぐられたですもんね。そいぎ、そこでいじめの露見したというのがあって、余りにも縦のラインをすると学校の先生がちょっと気の毒なのかなというのがあるんですよね。

それともう１つは、やっぱり家庭の存在だと思うんですよ。――あっ、その前に私は余りお医者さんには人気ないんですけど、武雄中学生には人気があって、中学生とこの前しゃべりよったら、「いじめどがんや」て言うぎ、なかなかやっぱり、「いじめはありようばってんが、私たちじゃ言いえんですもんね」というとのああとですよね。それを言える雰囲気を

つくるということも大事、そうすると学校の先生の負担が減るですもんね。その分だけ、かえって目の届くごとなるというふうに思うとですよ。

それと、さっきの話に戻りますけれども、家庭でやっぱりいじめのサイン、いじめられているサインというのは必ず出ると思います。それこそ上野議員も山口裕子議員もおっしゃいますけれども、家庭の重要性というのはそこにあると思いますので、その家庭の中で解決できない部分について、もちろん解決できない部分が多かろうと思うんですけど、そのときに学校とまたうまく連携をすると。

それで、幸いにして、私どもは今こども部があります。今まで教育委員会だけで対応していた部分が、こども部という新たな枠組みがありますので、そういうところに相談――実際相談に来られている方もいらっしゃいますし、私のところに相談に来られている方もいらっしゃいます。そういったことで、社会全体としていじめをなくしていこうという機運の高まりが大事なんじゃないかなというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

もう本当に聞いているとどれも納得できる話ばっかりで、やっぱり子どもたちでの話は子どもたちでというのももちろんわかるし、中学校とか小学校の先生もそういう対応をしよんさあとはしよんさあとですよね。ただ、でもやっぱりそこでなかなか解決もしなかったり、余計こじれたりとか、子どもたちの悩みもちょこちょこ話を聞きよったら、あら、それは大変にゃと思うごたっところもあるし、なかなか難しいところなんですよね。人間関係とかでも悩んでいる子どもも結構多くて、そのせいで部活をやめたりとかという話も聞いたりするとですよ。

私は、脳みそまで筋肉とかと言われるぐらい、何かスポーツばっかり言うなというぐらい言われるけんが、ちょっと反感な目で見られるかもわからんですけど、小学校ば卒業するときの子どもは、やっぱり中学校に入ってとなあぎ、勉強と部活を頑張るというとが大半ですもんね。小学校の卒業式、ほとんどそればっかり子どもたちは口にしよるとですよ。それだけ子どもたちにとって部活動って物すごく優先順位の高かとに、そういう人間関係とかで悩んでやめてほしゅうなかなと。親御さんとですね、保護者の人とちょっと話ばしよったら、本当に切実にそれば訴えてきよんさった人もおんさっとですよね。

だけん、何とかそういう回避できるようなことをですね。でも、それが最善の選択なのかと言わるっぎわからんところですよね。そこら辺、どうなんでしょうかね。難しい部分ではあるかと思うとですけど、状況的にはどうでしょう、教育長。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

年齢的にも発達段階からいっても、どうしても中学校段階で一番あらわれやすいというのは過去からの状況でございます。それぞれの中学校ですね、要するに一人一人が本当に存在感を持てる、何かイベントを仕組んでも、あるいは学級の中でも部活でも、とにかく生き生きと、少なくともあしたも行くぞというやる気につながる、そういう存在感をいかにして持たせるかと、そのあたりを今一生懸命頑張ってくれているものというふうに思っており、まずそれが第一かなというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

いや、もう本当これ難しかところですもんね。ただ、やっぱり子どもたちのために何とか、どがんかしてやりたかなというとが、やっぱりみんな、ここは一緒と思うとですよね。そういうところで、以前も質問しましたけど、以前市長は子どもと語る会を実施されましたよね。そのときに話を聞いて、ああ、いろいろ子どもたちの悩みも聞いたということで、以前も聞いたかと思いますけど、これ改めてちょっと聞かせてもらおうかなと思っています。

これは実際、この前のスマートボードなんかの発表会のときでも一緒やったとですけど、やっぱり子どもたちとの距離は結構近かとは思うとですよ、私も。

〔市長「近か」〕

市長と子どもたちの距離はですね。近かとは思うけど、でも今のこういう御時世、こういう状況の中では、やっぱり地域と学校と家庭と連携していかにゃいかんというときの私は市長は地域役だと思うんですよ。学校、家庭、地域の三位一体の連携が必要かとなったときに、やっぱり地域の役割の代表じゃなかかなと思うとですけど、この市長の子どもと語る会、これは今後開催するつもりがあるかどうか、改めてお伺いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

子どもと語ろう会は、いじめ問題がわあっと燃え盛ったときに、市長に就任させていただいて半年後ですよね、こうして物すごい反響が内外からあって、そのときに、その子たちが中学生に今なっているんですね。早い子は卒業して、今度は高校生と。やっぱりあのときの話って出ますもんね。我々が思っている以上に物すごくインパクトがあって、先ほどお話があったように、世代的に近い、精神年齢も近いですからね、近いというよりもあるんでしょうけど、これはぜひやりたいと思います。

ただ、これは物すごく周到な準備が要るんですよ。本当に私も１校行っただけで足ががたがたになるぐらい。だから学校の先生はえらいと思いますよ、本当。帰るときにちょっと足

が重くてなかなか帰りにくくなったというぐらい、自分の精神的に負担もありますのでね。だから、それはちょっと時期を見て、それはやろうと思っています。

特に小学校のこの前の経験でよく思ったんですけど、一番効果があるなと思ったのは小学校５年生ですね。４年生、５年生、６年生とやったんですけど、４年生じゃなかなかちょっと、何かおじさんの言いよることわからんねと、６年生はちょっと反抗期に差しかかっている子もいますので、その雰囲気が蔓延していて、５年生が一番何かシンパシーが合ったか、僕の精神年齢も小学校５年生かなと思って話ができましたので。だから、そういう意味で言うと、５年生を対象に年明け、寒いときがいいですね、したいなと思っています。そのときに教育長と、私は人間的にできていませんけど、教育長は人間的にできておられますので、一緒にね、教育長、一緒に。

いや、そうしないと、また政治家の教育現場の介入とか、云々かんぬん言われますからね。ですので、谷口攝久大先生が「言うよ」と言っていますけどね、そんなこと言っちゃいけませんよ。善意でやろうと思っているのにね。だから、そういう雑音に介さず、しっかりやっていきたいなと、このように思っております。（発言する者あり）

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

いや、子どもを中心に考えたら、私はやっぱりいろんな方法をとってみて、それで、その後それを検証することが必要じゃないかなと思いますので、あらゆる手段を駆使するべきだと私は思いますので、ぜひやっていただきたいなと思います。

それと、またちょっと視点を変えて、子どもたちが悩むのと同じように、保護者の方も非常に悩まれている現実があるわけですよ。もちろん教育委員会としても学校としても、開かれた学校づくりを念頭には置かれていると思います。それはそうだと思います。ただ、学校と保護者が気軽に話をしたり相談したり要望したりとかできるような環境が整っているのかなというのもちょっと気になる部分があるんですよ。

というのは、現に私が伺った話の中で、「あることを学校の先生に相談したら、何とかさんから苦情の来たというふうに扱われた」というのを聞いたわけですね。「それはあんまりばい、おいが学校に言うてやっけん」と言いよったぎ、「もう言わんでください」ということやったけど、その後の話でまたちょっと変わってきたとですけど。

そうでなくても、それも難しいところですよ。言葉だったり、口調だったり、それがもう苦情ととられることもやっぱりあるじゃないですか。同じ内容ば言いよっても、がんして言いよっても受け取られ方が違ったりするときもあるわけやっけんですよ。だけん、そういうことも考えられるかなというのもありますけど、そうでなくても「モンスターペアレント」という言葉にですね、保護者にしろ、学校にしろ、ちょっと敏感になり過ぎておる部分のあ

るとやなかかなというのがちょっと気になるところです。

先生たちに相談し切らんと。だけんがこそ、私にこうして話が来たりするとかもわからんとですけど。ぜひ気軽に相談できる環境づくりをということをお願いしたいと思いますけど、これについて教育長の見解を伺います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先ほどから、あらゆる手段をと言っていただいていることを非常にありがたく思っております。今の保護者の方が、本当にこれ学校に言うていいかなとか、あるいは言わんほうがいいかなと逡巡しながら対応されているという、そういう話も直接また耳に入ったりもするわけです。

ただ、ぜひですね、やっぱり子どものためにどうしたらいいかということで、やっぱり私たち保護者の方とも、先生方もですね、割と詳しく聞けば、誤解しておったり、一部だけを受けとめてという対応で誤解が生じている例も多くあるわけでありますので、極力、今の件も含めまして学校とまた話もしまして、子どものために連携できるということで進めていきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひよろしくお願いします。

教育についてもう１点です。３分しかありませんので足早に行きたいと思いますけど、今中学校３年生の人は高校受験にまっしぐらというようなところかなと思います。そういう中で一般入学――前期試験、後期試験というふうな表現がいいんですかね、推薦入学のところですよ、今回質問したいのは。

私が聞いたところによると、推薦入学は学校の日ごろの生活態度や日ごろの成績、それに部活動の活動状況とか、総合的に判断されるというふうに聞いておりますけれども、まずそれについて確認します。どうでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

一般推薦入学と運動部推進指定校推薦入学、両方ございまして、共通するのは今年度卒業とか、動機や理由が明確、適切であるとか、適性や興味及び関心を有するとか、そういう志願するコースにふさわしい者というのがございます。

それから、運動部のほうには、それに加えまして競技大会における記録等が基準に合って

いるかとか、あるいは入学後も活躍が期待できるかとか、そういう資格条件等がございます。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほど答弁に出ました競技条件に資格が合っているかどうかというところですよ。部活動でやられている方は、その資格条件を満たしているかどうかというのは学校の先生が判断できると思うんですけど、社会教育の場合、武雄市内の推薦をする際の基準というのは、その評価に含めるのか含めないのか、それについて答弁をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

中体連、あるいは九州大会、全国大会と同様に、社会体育での競技歴等についても推薦の基準ということで、あわせて推薦するようにいたしております。

○議長（牟田勝浩君）

３番上田議員

○３番（上田雄一君）〔登壇〕

時間になりましたんで終わります。ありがとうございました。